

この製品のここに注目

EV用急速充電器 Enewell-CEV

ただの「充電する箱」ではありません！

ライフスタイルの変化を先取りした開発コンセプト

自動車の新時代が、今まさに幕を開けようとしています。動力を内燃機関からモータに変えて、EVは今後急速に普及していくことでしょう。そのEVの普及には、インフラ整備が欠かせません。急速充電器の設置は、その重要な課題の一つです。

当社が開発した急速充電器 Enewell-CEVは、「航続距離が短い」というEVの特性と、「EV充電している間に何か他のこともできたら」という利用者の心理から、来るべきEV社会のライフスタイル変化を予測し、「出かけた先で何かのついでに急速充電」というコンセプトのもと、お客様の目線に立って様々な工夫を凝らしています。

ただの「充電する箱」では物足りない！ 当社のユニークな工夫をご覧ください。

高調波対策も万全です。

身近なインフラだからこそ、高性能にこだわっています。

電力変換時に発生する高調波は、周辺の電気機器に電波障害を起こすことがあります。当社は高品質・高信頼性で世界トップシェアを誇るインバータ技術を活かし、高調波を確実にカットする機能*を標準装備し、住宅地や商業施設にも安心に設置できます。

*：経済産業省から公示された「高調波抑制対策ガイドライン」に適合しています。



電源部

電源部とスタンド部が分離できます。

電源部とスタンド部は分離可能で、スタイリッシュなデザインのスタンド部のみを、おしゃれなショップやホテルの雰囲気に合わせて設置できます。

複数台の同時充電が可能です。

1台の電源部で最大2台のスタンドを同時に中速充電（約1時間）ができるので、設置スペースの有効利用が可能です。

スタンド部のフリースペースが活用できます。

スタンド上部のフリースペースを利用して、広告掲載や各種カードサービス機能など、様々な活用が可能です。プラスアルファの使い方は、設置者のアイデア次第です。

変わるライフスタイル、変わる充電ニーズ。

EVの充電には時間がかかります。これからのEV社会は、自宅コンセントでの充電（普通速で約半日）が基本。でも、ガソリン車に比べてEVの航続距離は短く、外出先でのバッテリー切れが心配です。そこで、出かけた先で「何かのついでに」急速充電（約20～30分）する、というようにライフスタイルが変化していくでしょう。

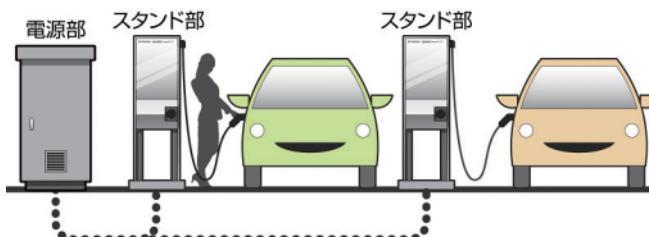
従来のガソリン車のように、給油のためにガソリンスタンドを探す必要はなくなります。EVの場合は各種店舗、観光施設、オフィスビル、集合住宅や商業施設など、街中でいつでも、どこでも充電可能な時代がやってくるでしょう。

簡単に操作できます。

セルフサービスでの充電が基本となるので、分かりやすい操作方法が重要です。操作説明とスイッチを一体化に配置しており、初めての方でも簡単に操作できます。



スタンド部



スタンド部と電源部を分離設置

複数台が同時に充電可能（最大合計50kW）



高速・高精度位置決めが得意！

多くの特許を保有する、当社独自の構造技術

半導体・液晶製造装置や工作機械等の精密産業装置の直動装置にリニアモーターを適用するケースが増えています。その理由として、リニアモーターが直接駆動により高速送りと高精度位置決めに優れており、ボールねじのグリース飛散がなくクリーン環境に対応していることが挙げられます。

リニアモーターにはコアレス形とコア付き形があります。コアレス形は可動子と固定子の間に吸引力やコギング力がないため、速度むらを抑えることができます。コア付き形は体格あたりの推力が大きいことが特長です。

当社はそれぞれのリニアモーター構造を研究し、半導体・液晶製造装置市場に求められている一定速送りや高速・高精度、



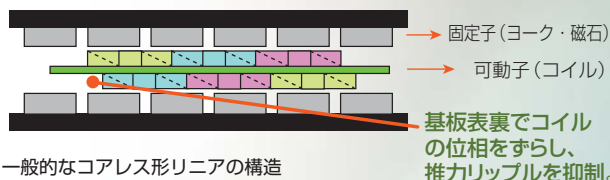
リニアモーター
Linear Σ シリーズ

小形、大推力などにおいて、他社に先駆け独自の構造技術を開発しました。今回はこれらの構造技術に焦点を当てて紹介します。

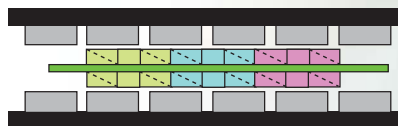
コアレス形 (SGLGW) の低推力リップル

コアレスの可動子には、基板両面に接着されたコイルが樹脂モールドされています。コイルを基板の表裏で位相をずらして配置することで、固定子の磁気特性ばらつき等の推力への影響を抑制し、低推力リップルを実現。速度むらが極端に小さくなり、より高精度な位置決めや速度制御が可能です。特に検査、塗布、露光などの装置に最適です。

◆ 当社のコアレス形リニアの構造



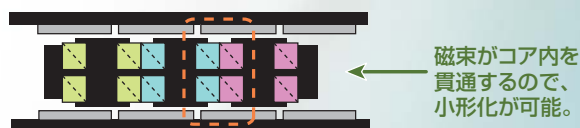
◆ 一般的なコアレス形リニアの構造



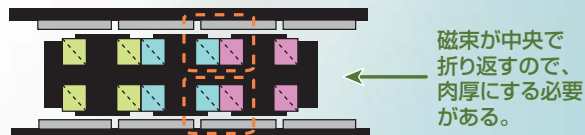
コア付きT形 (SGLTW) の高推力密度

一般的なコア付きT形リニアモーターは中央で磁束が折り返す構造をしており、折り返す箇所を肉厚にする必要があります。当社の場合は、磁束がコア内を貫通するようにして、小形化を実現しました。可動子質量あたりの発生推力を大きくできるため、高加減速運転が必要な実装機(マウンタ)のXY軸や、大推力が必要な大形液晶基板の送り軸などにご採用いただけます。

◆ 当社のコア付きT形リニアの構造



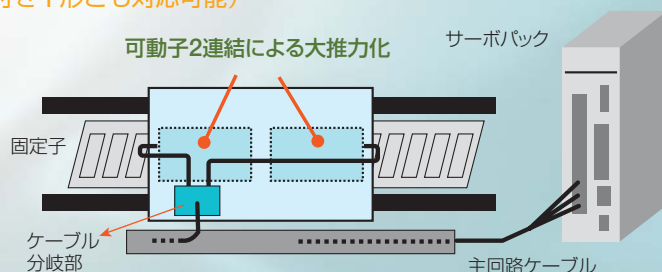
◆ 一般的なコア付きT形リニアの構造



可動子2連結による大推力化(コアレス形、コア付きT形とも対応可能)

リニアモーターの推力が装置の必要推力より不足する場合、2台の可動子を1台のサーボパックに並列に接続することで大推力化した1台のリニアモーターとして対応可能です。

この場合、2台の可動子の位相を一致させて取付ける必要があります。また、片方の可動子は断線を想定して、他方の可動子の保護回路を追加する必要もあるため、お問い合わせください。



■ お問い合わせ先：モーションコントロール事業部 事業推進部 開拓マーケティング課 TEL: 04-2962-5823 FAX: 04-2966-0746